

平成 31 年 4 月 6 日

愛媛県知事  
中村時広 様

東赤石山「赤石山荘」の存続について（要望書）

〒101-0032  
東京都千代田区岩本町 2-8-15  
井桁ビル 6F  
一般社団法人 日本地質学会  
会 長 松 田 博 貴 印

拝啓

貴県におかれましては、ますますご発展のこととお慶び申し上げます。

貴県新居浜市に属する東赤石山の赤石山荘（民営）につきまして、その経営管理者の高齢化と後継者の不在により存続が危ぶまれているとのお話を、当学会四国支部の会員及びその地域を研究フィールドとしている会員らからの情報で知りました。

当学会では、2017年9月に愛媛大学で学術大会を開催した折に、地質学的、岩石学的に大変重要な意味を持つ東赤石山周辺において地質巡検を実施いたしました。特に最重要の観察対象であるかんらん岩体へのアプローチには比高約1000mの登山を要するため、赤石山荘なしでの巡検実施はあり得ませんでした。当日は台風の影響で登山道が荒れ、予定よりも行程が遅れたものの、赤石山荘への宿泊を介していたため、問題なく巡検を終えることができたとの報告を受けております。

また研究活動においても、日本各地から多くの研究者や学生が東赤石山及び周辺の地質調査を継続的に行っており、これまでも国際的な研究成果を含む数多くの重要な研究がなされ、日本の地質学研究の発展に大きく貢献している場所でもあります。また赤石山荘への複数回の宿泊を経て作成、出版された5万分の1地質図幅「新居浜」及び同説明書（青矢ほか、2013）は、新居浜地域の防災、環境保全、産業立地等に貢献するための基礎資料を提供するものです。近年では、地震予知に繋がる「スロー地震」のメカニズム究明に関する研究もなされ、今後想定される海溝型巨大地震に対する防災・減災にも寄与しています。

このようなことから、赤石山荘のような山小屋は、一般の登山者はもとより、私たち地質学を研究する者にとっても安全な研究活動を継続していくためにきわめて重要な存在であり、今後も存続することを強く望むものであります。

地元の関係の方々におかれましては、この件の重要性に鑑み、貴県をはじめ新居浜市などに対しても現赤石山荘を新居浜市に移管し、老朽化した建物の跡地に避難小屋を建設し、永続的な管理運営をしていただくことを要望し、具体的な働きかけをされていると聞き及んでおります。

日本地質学会としては、研究者が安心して活動ができる安全な研究フィールドの確保と維持のため、ぜひとも山小屋の存続、それに代わる避難小屋の建設等に関し、貴県のご理解と積極的なご支援を賜りたくお願いをする次第でございます。

なお本要望書とともに、ご参考までに東赤石山周辺での研究活動による業績を添付いたします。

敬具

※一般社団法人日本地質学会は、地質学の発展や普及を目指し、今から 100 年以上前の 1893 年に創立されました。大学・研究機関の研究者や学校の先生、地質関連企業に勤務する社会人、学生など約 3600 人が所属し、日本の地球諸科学関連学協会の中で最大規模の学会です。

<添付資料>

参考：赤石山荘の利用を通じて出版された研究業績の例

Aoya M., Endo S., Mizukami T. and Wallis S. R. (2013) Paleo-mantle wedge preserved in the Sambagawa high-pressure metamorphic belt and the thickness of forearc continental crust. *Geology*, **41**, p.451-454.

青矢睦月・水上知行・遠藤俊祐 (2017) 巡検案内書 三波川帯トラバース：最浅部変成岩から最深部超苦鉄質岩まで。地質学雑誌, **123**, p.491-514.

青矢睦月・野田 篤・水野清秀・水上知行・宮地良典・松浦浩久・遠藤俊祐・利光誠一・青木正博 (2013) 新居浜地域の地質。地域地質研究報告 (5 万分の 1 地質図幅), 産総研地質調査総合センター, 181 p.

Guild M., Till C., Hervig, R. and Wallis S. (2016) Depth of chlorite formation: quantitative determination using boron isotopes. Goldschmidt conference 2016 (Yokohama) abstract.

Hattori K., Wallis S., Enami M. and Mizukami T. (2010) Subduction of mantle wedge peridotites: Evidence from the Higashi-akaishi ultramafic body in the Sanbagawa metamorphic belt. *Island Arc*, **19**, p.192-207.

駒井美穂・水上知行・永治方敬・ウォリス サイモン・大内智博 (2018) DisGBS 領域におけるかんらん石の再結晶：新粒子形成に関する詳細な方位解析。日本地質学会（札幌）講演要旨, p.268.

松原克弥・小林仁弥・水上知行・遠藤徳孝 (2018) 反応-移流系における蛇紋岩化の数値計算：速度定数とレイヤーリングの関係。日本地質学会（札幌）講演要旨, p.269.

Mizukami T. and Wallis S. R. (2005) Structural and petrological constraints on the tectonic evolution of the garnet-lherzolite facies Higashi-akaishi peridotite body, Sanbagawa belt, SW Japan. *Tectonics*, **24**, TC6012, doi:10.1029/2004TC001733.

Mizukami T., Wallis S. R. and Yamamoto J. (2004) Natural examples of olivine lattice preferred orientation patterns with a flow-normal  $a$ -axis maximum. *Nature*, **427**, p.432-436.

Mizukami T., Yokoyama H., Hiramatsu Y., Arai S., Kawahara H., Nagaya T. and Wallis S.R. (2014) Two types of antigorite serpentinite controlling heterogeneous slow-slip behaviors of slab-mantle interface. *Earth and Planetary Science Letters*, **401**, p.148-158.

Nishii A., Wallis S. R., Mizukami T. and Michibayashi K. (2011) Subduction related antigorite CPO patterns from forearc mantle in the Sanbagawa belt, southwest Japan. *Journal of Structural Geology*, **33**, p.1436-1445.

Wallis S. R., Kobayashi H., Nishii A., Mizukami T. and Seto Y. (2011) Obliteration of olivine crystallographic preferred orientation patterns in subduction-related antigorite-bearing mantle peridotite: an example from the Higashi-Akaishi body, SW Japan. *Deformation Mechanism, Rheology and Tectonics: Microstructures, Mechanics and Anisotropy*, Geological Society of London Special Publication, **360**, p.113-127.